令和５年度　第１回岐阜県社会教育委員の会　議事録要旨

１　日時　令和５年７月１２日（水）１５：００～１６：３０

２　場所　岐阜県議会議事堂会議室　第１会議室

３　出席者（委員の現在数１４人　出席者１０人）

＜委員＞

天野　知子
岩田　睦巳
宇野　舞子
杉原　　和
野中　準二
益川　浩一
馬渕　浩史
松原　勝己
村瀬　眞実
米原木ノ実

＜事務局＞

環境生活部次長	高橋　一雅
環境生活政策課長	森　　祥一
生涯学習企画監	安藤由美子
係長	久留亜理子
課長補佐	堀　　正樹
主査	竹内　洋平

４　議事

（１）令和５年度　社会教育委員の会の活動について

・資料をもとに事務局から説明

新しい審議題の設定を委員改選の年に変更することを提案する。

益川議長：ご意見・ご質問等いかがか。

委　　員：承認。

（２）令和５年度　社会教育事業について

・資料をもとに事務局から説明

松原委員：特別支援学校のPTAに関わるものは、自ら申請をするものなのか。補助金の手続きはどのように進められているのか。

事 務 局：特別支援学校の手続きや予算の確保については教育委員会が担当になる。教育委員会の特別支援教育課に一度相談いただきたい。

岩田委員：令和５年度東海北陸公民館大会岐阜大会への補助金交付について感謝申し上げる。

（３）研究・協議の成果物について

・資料をもとに事務局から説明

益川議長：ハンドブックの改訂版を作成していく。初版のものは、大変好評であった。現場に役立てていけるハンドブックにまとめていきたい。「人の重要性」をポイントにして、

関わっている人の願いや思いを盛り込んで完成させたい。

村瀬委員：原稿の完成の見通しを確認したい。配布のタイミングはいつ頃を考えているか。

事 務 局：第２回の社会教育委員の会を８月に予定している。その段階でほぼ原稿を入れた状態で委員の皆様に検討していただく。１１月の第４回の社会教育委員の会で最終決定を予定している。

成果物の完成は今年度末を考えている。配布先については、今後提案させていただく。

益川議長：完成して終わりではなく、どう活用していただくか、関係者にどうやって届けていくのかについて今年度議論していきたい。

岩田委員：途中で一度、郵送またはメール等による原稿の確認は必要と思われる。前回のリーフレットも同様の作業があったが、それで年度末ぎりぎりの完成となった。

中身についは、「なぜ人材育成なのか。」ということをどこに入れていくのか。巻頭言に入れていくのか、別ページを作るのか。これまで事例の研究討議で共通することは何かを確認してきた。共通することは、「地域に入り込んでいける人」「動じない人」などの共通項があった。また、岐阜県が求めている地域学校協働活動に関わる人とはどんな人物なのかを入れてはどうか。

益川議長：人に注目した背景は何らかの形で入れていくことを大事にしたい。読み手にどんなことを伝えたいのかを明示することで、ハンドブックが意義あるものとなる。

宇野委員：ハンドブックを作成することで、地域学校協働活動の理解が進むことになると思われる。ハンドブックの配布対象に保護者は入っているのか。

事 務 局：配布対象は、社会教育委員、公民館関係者、学校関係者、市町村行政職員を現在は考えている。作成されたものは、ホームページにアップすることを考えている。広くみなさんにご覧いただける。

益川議長：学校関係者の中に、PTA も入ることになるので配布対象として検討いただきたい。冊数に限りがあるが検討していただきたい。

天野委員：学校に配布されると、管理職で止まってしまい他の職員は見られていないと思う。社会教育委員もそうだが、実際に活動される委員の目に触れるようにしたい。また、公民館では、施設内で自由に閲覧できるようにしたい。配布物は、実際に活動する方に見ていただけるようなことを示していただきたい。

松原委員：勤務校では PTA の役員に配布し活用していただきたいと考えている。自分が活用しようとする場合、ハンドブックの中にどんなボランティア団体があるのかを確認する。ボランティア団体を列挙することは難しいか。

益川議長：市町村でボランティア団体を活用しているが、多種多様で地域自治体によって活用方法が違っている。それを全て網羅的に記載するのは難しい。県内に向けての成果物であるので、市町村毎の個別具体的なものになってくると難しいと思われる。ハンドブックの中に、ボランティア団体の活用事例等を掲載し、どんなボランティア団体と繋がって活動しているかを参考にする程度でどうか。

松原委員：どこに相談すればボランティア団体につながるのか。ボランティアの窓口や繋がるき

っかけを掲載したらどうか。

益川議長：例えば、QR コードを掲載して関係のリンクにつながったり、ボランティアを活用した事例につながったりする工夫を検討していきたい。

馬渕委員：学校と地域が繋がるのが難しいと感じている。民間から学校へのアプローチはハードルが高い。今、学校からのアプローチは多い。社会教育士の資格を地域の方に取っていただき、地域の方が学校へアプローチできるような動きができると良い。そういった意味からも社会教育士等、学校と地域を繋ぐ人材を育成することについても掲載したらどうか。

益川議長：この事業は、学校と地域を繋ぐ人として、地域学校協働活動推進員というものが法律上で位置づけられている。実は、推進員に求められる力量は社会教育士の視点である。ぜひ、推進員には社会教育士の資格を取得していたくことを推奨する。令和６年度は岐阜大学で社会教育主事（士）講習を行う予定である。学校、行政職員に限らず民間の方に取得していただくことは地域活動の活性化に良い。

杉原委員：人を描ききる難しさを感じる。学校と地域が繋がることは意外に難しいと感じている。学校は忙しい上に学校は今、大きく変わらなければいけない状況。地域の人が学校に入り込んでこられるスペースを設けながら地域の人が学校や子どもを思うエネルギーを形にしたい。地域学校協働活動に関わる人の熱い思いを実践と共に具体化できると良い。目指す人物像と共に組織の在り方も伝わると良い。

米原委員：地域学校協働活動の活動員として活躍できると自身で気づいていない方がいると思う。ハンドブックを手に取って、自分にできることに気づくかもしれない。

益川議長：若者が地域学校協働活動にどう関われるのかといった視点があっても良い。子ども基本法ができて、子どもの参画が注目されている。子どもの参画の視点が重要になってくると考えている。

杉原委員：若者の声が集まってくるものがあると良い。学生ボランティアで関わった学生の声を目にすることができると良い。地域の運動会を実施するときに、地域の中学生に地域の方が声をかけていき活躍できる場を提供できると良い。

益川議長：学校運営協議会でも大人が議論している。最近、当事者の子ども達がどう考えているかという視点で子どもが学校運営協議会に参画するような動きをしている所もある。本日の議論を確認する。

①ハンドブック作成に関わるスケジュールは冒頭に説明があった形で進めていきたいと考えている。第２回でほぼ原案が出てくる状況で進めたい。しかし、進捗状況によって郵送やメールによる確認が必要になってくる場合もあるので委員のみなさんには協力いただきたい。第４回には、ほぼ完成に近いものをイメージしたい。

②なぜ人に着目したのかといった背景について表記したい。また、どういうことを伝えたいのかといったまとめの部分も必要だと思う。そして、人の熱い語りが記載された部分も検討してきたい。

③体裁について確認していただきたい。また、さまざまな情報が掲載されると良い。

④普及・活用について、必要な人のところに届ける手立てが必要であるため、幅広く配布されるように検討していきたい。

⑤若者の参画について、紙面の都合がつくようであれば記載できると良い。

野中委員：社会教育委員の会で事例発表していただいた山本さんの事例は紙面に書ききれないので、動画の形で視聴できるようなものがあっても良いと思う。

益川議長：議事が終了したため、進行を事務局へお返しする。